

第5章 今後の課題

(1) 首都圏 3 環状道路の整備等に伴う交通流動分析

本業務では、首都圏 3 環状道路を始めとする都心部及び首都圏域の道路について、交通流動の調査、分析を行った。具体的には、トラカンデータや ETC データ、ETC2.0 プローブデータ等の各種データを用いて分析した結果、①交通流動の変化はネットワーク変化による影響が大きいこと、②圏央道の開通により沿線地域の企業立地が増加しており、地価・税収も増加していること、③首都圏 3 環状道路の概成により多くの地域で高速道路へのアクセス性が向上していることを確認した。

また、羽田空港・京浜三港周辺における大型貨物車の交通流動分析として、京浜三港・羽田空港を発着する貨物車の走行経路を分析した。

今後も、首都圏における道路整備や近年の交通施策、物流及び経済施策等の社会情勢の変化等を踏まえた首都圏域の交通流動を多面的・多角的に分析する必要がある。特に、圏央道 4 車線化前後の影響として交通ビッグデータを活用し、交通量・走行速度・主要拠点間の所要時間の変化を比較するなど、交通容量増加によるボトルネック解消効果等を検証することが考えられる。さらに、様々な観点で社会情勢の変化が想定されることから、引き続き交通流動分析を行い、時系列的な変化を把握して、首都圏における交通施策等の基礎資料とすることが重要である。

(2) 新たな道路 NW の交通流動の影響及び効果分析

本業務では、新たな道路や交通施策による交通流動の変化や期待される影響について分析し、調査中及び構想路線を含む首都圏広域道路ネットワークを踏まえた首都圏 3 環状道路周辺の地域において、交通流動の変化や期待される影響について交通量推計をはじめとする各種データから整理した。

今後は、核都市広域幹線道路など調査中及び構想路線を含む首都圏広域道路ネットワークを踏まえ、交通流動の影響や期待される効果を分析・整理することが考えられる。具体的には、事業化ネットワークをベースに新たな道路ネットワークを反映、更新した上で、交通需要推計モデルにより、主要拠点間の所要時間や走行経路の変化などを検証することなどが想定される。